

文化人類学

科目のねらい

本科目は、グローバル化する情報社会において必要とされる、多様な文化に関する知識・教養を身につけることを目的とする科目である。また、本科目においてはグローバル化する文化を特定のコミュニティにおける文化に適合的な形に読み替えてゆくローカライゼーションに関する認識を深めることも目的としている（キャリア教養学科）。

担当教員	高橋 嘉代
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

「文化」とは、「生活者としての人間の営み」そのものと言うことができる。私たちは日々、自然、モノ、そして他の人々等様々な対象に対して様々な形で働きかけ、そして様々な対象からの働きかけを様々な形で受け止めている。文化人類学とは、人間が日々行っている、対象への働きかけ方と対象からの働きかけの受け止め方を解きほぐしてゆくことを通して、「人間とは何か」を問うてゆく学問分野である。そこでこの授業では、「生活者としての人間の営み」、すなわち「歴史的・社会的存在としての人間の営み」に注目し、人間の多様性と普遍性を様々な切り口から見据えながら、「人間とは何か」について、受講生と共に考えてゆきたい。

到達目標

- 1)文化人類学の基礎概念を学び、理解する。
- 2)文化人類学の成り立ちを学ぶことを通して、近代社会の成立過程についての認識を深める。
- 3)人間の営みの多様性と普遍性について学ぶことを通して、自らのものの考え方と行動様式を相対化して捉える態度を身につける。

各回の内容

1. ガイダンス/文化人類学とははじめ・「文化」とはなにか

2. 言葉の織りなす世界：人はこれで、「世界」を「知る」

3. 「時間」とはなにか：持続し、分割されるもの

4. 「空間」とはなにか：広がり、閉ざされるもの

5. 「聖」と「俗」：日常と非日常

6. 呪術と宗教：見えない何かと見える何か

7. 神話と世界観：人と社会の青写真

8. 儀礼と境界：一線のこちらと向こう側

9. 家族と親族（1）さまざまな家族類型

10. 家族と親族（2）「ミウチ」はどこまで？

11. 家族と親族（3）縁組とネットワーク

12. 贈与と交換：巡り巡ってその先は？

13. 生業のあり方（1）：狩猟採取

14. 生業のあり方（2）：牧畜と農耕

15. ジェンダーとセクシュアリティ：「お金の管理」は誰がする？

16. 試験

文化人類学

準備学習（予習・復習等）

履修にあたり特別な専門知識は不要だが、日々の諸現象に改めて注目し、起きていることを観察しつつ「もしここが南半球だったらどうなるか」等の脳考察を一日1回（1回あたりの所要時間の目安は20～30分程度）、可能であれば一日3回程度是非行って欲しい。それがこの授業の予習であり復習である。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

授業は主にスライド上映を取り入れながらの講義形式で実施するが、授業中に授業内容についてのPBL（課題解決型学習）の時間を2度（それぞれ5分から10分程度）程度設けることとする。この際の成果についてはその一部を次回の授業時間に紹介する。同じく前回の授業内容に関する反転授業も授業開始時に5分から10分程度時間を設けて実施する。

評価方法

期末試験（100点満点：100%）。授業時の配布資料に限り持ち込み可。

教科書

特になし。教員作成の配布資料を主に使用する。スライドや映像、その他の資料等も適宜参考資料として用いる。

参考文献

特になし。授業の知識を深めるのに有効な参考文献がある際には別途指示する。

文化人類学

科目のねらい

本科目は、文化人類学Iの学習内容を受けて、グローバル化する情報社会における多様な文化に関する知識・教養を展開させることを目的とする。さらに本科目ではローカライゼーションについての知識を背景として、多様化するコミュニティの現状と課題を読み解いてゆく能力を涵養することも本科目の目的とするところである（キャリア教養学科）。

担当教員	高橋 嘉代
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

文化人類学IIでは、文化人類学Iで学習した内容をふまえて「生活者としての人間」が周囲の環境の変化にどのように対応しようとしていったのかという問いを中心に据えて、より応用的・現代的なトピックを取り上げたい。

20世紀の半ば以降、世界規模での政治体制の変化、産業構造の変化という文化変容が現れた。激動の時代の中で人々と社会は、先人から受け継いできた「ものごとの受け止め方・ものごとへの働きかけ方」をどのように適用し、作り替え、捨て去り、そして新しく構築しているかについて様々な切り口から見据えながら、「人間とは何か」という問いの先にあるものを、受講生と共に考えてゆきたい。

到達目標

- 1)文化人類学の基礎概念についての理解を深める。
- 2)人間と社会の多様性と普遍性を学ぶことを通して、現代社会の課題について考察する。
- 3)人間の営みの多様性と普遍性について学ぶことを通して、自らが持つ・自らが生きる社会における価値基準を相対化して捉える態度を身につける。

各回の内容

1. ガイダンス/文化人類学Iのふりかえり
2. 民族と国家：「出身」って何だろう
3. 移動・移民：働くことと生きること
4. 多文化教育：実は今もその瞬間
5. 文化の変化・文化の衝突：古くて新しい課題
6. 法・政治そして紛争：誰が決めるか・誰を決めるか
7. モノと文化：道具を作る人々・道具に作られる世界
8. 工業化と情報化：ブラウザのこちらと向こう
9. 組織学習と組織文化：同じゴールをめざす人々の営み
10. 観光：あなたの非日常は私の日常
11. 災害：日常を喪失したとき
12. 身体と文化：健康とはどのような状態か
13. 生殖医療と文化：命はだれのもの？
14. 高齢者と「老いること」：憧れと不安の狭間
15. 病いの語り、死の語り：旅立ちの前に
16. 期末試験

文化人類学

準備学習（予習・復習等）

履修にあたり特別な専門知識は不要だが、日々の諸現象に改めて注目し、起きていることを観察しつつ「これが100年前の日本だったらどうか」等の考察を一日1回（1回あたりの所要時間の目安は20～30分程度）、可能であれば一日3回程度是非行って欲しい。それがこの授業の予習であり復習である。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

授業は主にスライド上映を取り入れながらの講義形式で実施するが、授業中に授業内容についてのPBL（課題解決型学習）の時間を2度（それぞれ5分から10分程度）程度設けることとする。この際の成果についてはその一部を次回の授業時間に紹介する。同じく前回の授業内容に関する反転授業も授業開始時に5分から10分程度時間を設けて実施する。

評価方法

期末試験（100点満点：100％）。授業時の配布資料に限り持ち込み可。

教科書

特になし。教員作成の配布資料を主に使用する。スライドや映像、その他の資料等も適宜参考資料として用いる。

参考文献

特になし。授業の知識を深めるのに有効な参考文献がある際には別途指示する。

戦後日本社会史

科目のねらい

本科目は、コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い知識の習得を目指すものである。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

本講義では、戦後日本社会史のうち、1945年～1980年代後半までの時期について学習する。この場合、「戦後（第二次世界大戦後）」、「米ソ冷戦」、「昭和」、の3つの観点から、「政治・外交」、「経済」、「社会・文化」分野の重要出来事に焦点を当てるものである。授業では、当時の映像資料等を積極的に活用したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

到達目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「戦後日本社会史（1945～1980年代後半）」を理解する上で重要な出来事やキーワードについて説明できるようになる。
2. 「戦後日本社会史（1945～1980年代後半）」が自らの暮らすコミュニティにとって持つ意義を理解できるようになる。
3. 「戦後日本社会史（1945～1980年代後半）」の授業内容を踏まえ、自らの暮らすコミュニティの課題を発見し、それに対して自らの解決策を構想できるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明

2. 戦後日本の重要論点の整理

3. 日本国憲法の制定

4. 東京裁判と靖国神社

5. 自衛隊と日米安保

6. 戦後日本と沖縄

7. サンフランシスコ講和会議

8. 戦後の領土問題:北方領土、竹島、尖閣諸島

9. 高度経済成長と福島

10. 高度経済成長と福島

11. 「昭和」の社会・文化・流行

12. 「昭和」の社会・文化・流行

13. 「昭和」の社会・文化・流行

14. 「昭和」の社会・文化・流行

15. 授業のまとめ

16. 試験

戦後日本社会史

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

各回、パワーポイント資料を受講生に配布しつつ、動画や映像なども活用しつつ、授業をすすめる。

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1.授業の際の課題を含む平常点（20％） 2.中間レポート（30％） 3.最終テスト（50％）

試験の解答例については、授業の中で説明する。また、提出されたレポートのうち、「ベスト・レポート」については授業の中で紹介する。

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

『昭和・平成史年表』平凡社 2009年

細田正和、片岡義博『明日がわかるキーワード年表』細流社 2009年

太田省一『アイドル進化論』筑摩書房 2011年

中村政則、森武麿『年表昭和・平成史：1926～2011』岩波 2012年

戦後日本社会史

科目のねらい

本科目は、コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い知識の習得を目指すものである。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

本講義では、戦後日本社会史のうち1980年代後半から今日に至るまでの時期について学習する。この場合、「ポスト戦後」、「ポスト冷戦」、「平成」の3つの観点から、「政治・外交」、「経済」、「社会・文化」分野の重要出来事に焦点を当てるものである。授業では、当時の映像資料等を積極的に活用したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

到達目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「戦後日本社会史（1980年代後半～）」を理解する上で重要な出来事やキーワードについて説明できるようになる。
2. 「戦後日本社会史（1980年代後半～）」が自らの暮らすコミュニティにとって持つ意義を理解できるようになる。
3. 「戦後日本社会史（1980年代後半～）」の授業内容を踏まえ、自らの暮らすコミュニティの課題を発見し、それに対して自らの解決策を構想できるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明

2. 「ポスト戦後」、「ポスト冷戦」、「平成」を考察するための分析枠組み

3. バブル景気の発生と崩壊

4. バブル景気の発生と崩壊

5. 平成の重要事件

6. 平成の重要事件

7. 平成の重要事件

8. 平成の重要事件

9. 平成と若者

10. 平成と若者

11. 平成とファッション

12. 平成とファッション

13. 平成と言葉

14. 平成と言葉

15. 授業のまとめ

16. 試験

戦後日本社会史

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

各回、パワーポイント資料を受講生に配布しつつ、動画や映像なども活用しつつ、授業を進める。

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1.授業の際の課題を含む平常点（20％） 2.中間レポート（30％） 3.最終テスト（50％）

試験の解答例については、授業の中で説明する。また、提出されたレポートのうち、「ベスト・レポート」については授業の中で紹介する。

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

『昭和・平成史年表』平凡社 2009年

細田正和、片岡義博『明日がわかるキーワード年表』彩流社 2009年

太田省一『アイドル進化論』筑摩書房 2011年

中村政則、森武麿『年表昭和・平成史：1926～2011』岩波 2012年

現代の国際関係

科目のねらい

本科目は、コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い知識の習得を目指すものである。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

本講義では、「3.11（東日本大震災・福島第一原発事故）」以後の日本を取り巻く国際情勢について学習する。この場合、「転換期を迎えた世界」と「3.11の被災地福島」との関連性に焦点を当てるものである。「国際関係」はとらえにくい学習対象であるが、政治、経済、外交、安全保障分野の基礎知識のない学生にも配慮しつつ、講義を行う。また、学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

到達目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「転換期を迎えた世界」を理解する上で重要なデータとキーワードについて、説明ができるようになる。
2. 「転換期を迎えた世界」と「3.11の被災地福島」がどのようにつながっているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 現在関心を集めている国際問題を題材にしつつ、自らの暮らすコミュニティが直面する課題を発見し、それに対する自分なりの解決策を構想できるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明

2. 「転換期を迎えた世界」の考察枠組み

3. データとキーワードでとらえる転換期世界

4. データとキーワードでとらえる転換期世界

5. より良い世界の実現に向けた取り組み

6. より良い世界の実現に向けた取り組み

7. 東日本大震災・福島第一原発事故：グローバルな次元

8. 東日本大震災・福島第一原発事故：グローバルな次元

9. 世界と福島をつなぐ視点1：ビジネス

10. 世界と福島をつなぐ視点1：ビジネス

11. 世界と福島をつなぐ視点2：若者・文化

12. 世界と福島をつなぐ視点2：若者・文化

13. 世界と福島をつなぐ視点3：観光

14. 世界と福島をつなぐ視点3：観光

15. 授業のまとめ

16. 試験

現代の国際関係

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

各回、パワーポイント資料を受講生に配布しつつ、動画や映像なども活用しつつ、授業を進める。

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1.授業の際の課題を含む平常点（20％） 2.中間レポート（30％） 3.最終テスト（50％）

試験の解答例については、授業の中で説明する。また、提出されたレポートのうち、「ベスト・レポート」については授業の中で紹介する。

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。

首相官邸：<http://www.kantei.go.jp>

外務省：<http://www.mofa.go.jp/mofaj>

総務省統計局統計センター：<http://www.stat.go.jp/data/guide/index.htm>

現代の国際関係

科目のねらい

本科目は、コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い知識の習得を目指すものである。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

本講義では、転換期を迎えたアジアの最新事情について学習する。この場合、「転換期を迎えたアジア」と「今、ここにいる自分」との関連性に焦点を当てるものである。多くの学生にとって「アジア」はとらえにくい学習対象であるが、授業では、現地調査の際の写真やエピソード、街角で見つけた不思議なグッズなども紹介したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めているアジアに関連する時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

到達目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「転換期を迎えたアジア」を理解する上で重要なデータとキーワードについて、説明ができるようになる。
2. 「転換期を迎えたアジア」と「3.11の被災地福島」がどのようにつながっているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 現在関心を集めているアジアを中心とした国際問題を題材にしつつ、自らの暮らすコミュニティが直面する課題を発見し、それに対する自分なりの解決策を構想できるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 「転換期を迎えたアジア」の考察枠組み
3. シンガポール：多民族国家の素顔
4. マレーシア：多民族共存とイスラム・アイデンティティのはざま
5. ベトナム：内憂外患に直面する親日国家の苦悩
6. カンボジア：内戦の悲劇と世界遺産と共に
7. タイ：親日国家の希望と苦悩
8. ラオス：ASEAN唯一の内陸国の素顔
9. インドネシア：世界最大のイスラム国家はどこに行くのか？
10. フィリピン：安定成長を続けるリゾート・アイランド
11. ミャンマー：アジアの「最後のフロンティア」のゆくえ
12. インド：ICT立国を目指す潜在的超大国のゆくえ
13. バングラデシュ：NGO/NPOが支える公共セクター
14. ネパール：大地震（2015年4月）からの復興
15. 授業のまとめ
16. 試験

現代の国際関係

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在のアジアと日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

各回、パワーポイント資料を受講生に配布しつつ、動画や映像なども活用しつつ、授業を進める。

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1．授業の際の課題を含む平常点（20％） 2．中間レポート（30％） 3．最終テスト（50％）

試験の解答例については、授業の中で説明する。また、提出されたレポートのうち、「ベスト・レポート」については授業の中で紹介する。

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。

首相官邸：<http://www.kantei.go.jp>

外務省：<http://www.mofa.go.jp/mofaj>

総務省統計局統計センター：<http://www.stat.go.jp/data/guide/index.htm>

社会調査法入門

科目のねらい

本科目は、グローバル化する情報社会において必要とされる、リサーチリテラシーを身につけることを目的としている。また、本科目においてはグローバル化する文化を特定のコミュニティにおける文化に適合的な形に読み替えてゆくローカライゼーションに関する認識を深めることも目的としている（キャリア教養学科）。

担当教員	高橋 嘉代
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

社会調査は、調査対象集団から一定以上の規模のデータを集め、そのデータからもとの集団の特徴を統計学的に把握しようとする「量的調査」と、主に文字情報によって記述されたデータの分析を通して、ある一定の状況についての記述、仮設の生成などを旨とする「質的調査」に大別することができる。前者の典型例としてはいわゆる「アンケート調査」があり、後者の典型例としては各種のインタビューや文書資料の分析などがあげられる。この授業では社会調査の成り立ちと方法、分析手法および各種社会調査の実例や近年の研究動向などについて、講義と演習（「みんなで研究発表」詳細は後述）を通して学習する。

到達目標

この授業では、広く社会に通用するリサーチリテラシーを身につけることを目的とする。それと併せて、各自の課題をまとめ、報告することを通してプレゼンテーション能力を育むとともに、プレゼンテーションリテラシーを身につけることも目標とする。

各回の内容

1. ガイダンス・社会調査とはなにか
2. 社会調査を取り巻く状況
3. 社会調査における倫理と個人情報保護
4. 量的調査の特徴とその種類
5. 質問紙の構成とワーディング
6. 量的データの分析方法
7. 質的調査の特徴とその種類
8. みんなで研究発表（1）：情報収集と調査研究テーマの設定
9. みんなで研究発表（2）：調査計画案発表
10. みんなで研究発表（3）：調査計画案の修正と再度の情報収集
11. みんなで研究発表（4）：研究結果発表
12. みんなで研究発表（5）：研究結果発表
13. みんなで研究発表（6）：研究発表のふりかえり：到達点と課題の確認
14. みんなで研究発表（7）：社会調査の意義と目的の再確認

社会調査法入門

準備学習（予習・復習等）

履修に資して特別な知識は必要としないが、授業の後半はアクティブラーニングを用いた実践的なグループ作業となるので、メンバー間での意思の疎通をよくはかっておく必要がある。また、気になった用語や人名、トピックについては速やかにネットで検索し、基本的な情報を確認しておく習慣を身につけること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

授業は第8週までは主にスライド上映を取り入れながらの講義形式で実施するが、授業中に授業内容についてのPBL（課題解決型学習）の時間を2度（それぞれ5分から10分程度）程度設けることとする。この際の成果についてはその一部を次回の授業時間に紹介する。同じく前回の授業内容に関する反転授業も授業開始時に5分から10分程度時間を設けて実施する。

第9週以降の「みんなで研究発表」では、グループ単位でテーマを決めて簡単な調査研究および発表を行い、発表後の「振り返り」を通して学習内容の定着をはかる。

評価方法

研究計画案：20%

研究発表：30%

最終レポート（研究発表の際に作成した資料・発表原稿・「振り返り」）：50%

教科書

特になし。教員作成の配布資料を主に使用する。スライドや映像、その他の資料等も適宜参考資料として用いる。

参考文献

特になし。授業の知識を深めるのに有効な参考文献がある際には別途指示する。

公共政策論

科目のねらい

コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得する

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	2年後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代社会の諸問題、それに対する政策や政策決定プロセス、NPOの取り組み等について学ぶ。

到達目標

一連の政策プロセスやNPOの活動を理解する。
社会保障、環境など現代社会の諸問題やそれらに対する政策等を理解する。

各回の内容

1. 公共政策とは何か
- 公共政策の体系、特徴等について学ぶ -
2. 政策プロセス（1）
- 公共的問題の発見・定義について学ぶ -
3. 政策プロセス（2）
- 公共的問題の解決策の立案について学ぶ -
4. 政策プロセス（3）
- 公共政策の決定について学ぶ -
5. 政策プロセス（4）
- 公共政策の実施について学ぶ -
6. 講演（日本銀行福島支店長）
- 金融政策について学ぶ -
7. 政策プロセス（5）
- 公共政策実施後の評価について学ぶ -
8. 政策プロセス（6）
- 公共政策の改善について学ぶ -
9. 新しい公共の役割（1）
- 新しい公共が求められる背景について学ぶ -
10. 新しい公共の役割（2）
- 新しい公共の活動の類型について学ぶ -
11. 新しい公共の役割（3）
- 新しい公共の活動の取り組みについて学ぶ -
12. 新しい公共の役割（4）
- 新しい公共の課題（担い手の育成）について学ぶ -
13. 新しい公共の役割（5）
- 新しい公共の課題（資金循環）について学ぶ -
14. 講演（NPO）
- NPOの活動について学ぶ -
15. まとめ
- 我が国の課題について考える -
16. 試験

公共政策論

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、理解度の確認等を目的にレポートの提出を求めることがある。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・講義形式を基本とするが、各回においてグループワークなど対話的に考える場面を設定する。
- ・担当教員は、国家公務員として、実務経験がある。政策のプロセスなどに関し、実務経験を活かして講義する。

評価方法

試験 60%、レポート 40%、いずれも採点后に返却する

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

秋吉貴雄（2017）『入門公共政策学』中央公論新社
奥野信宏・栗田卓也（2010）『新しい公共を担う人びと』岩波書店

企業論

科目のねらい

コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得する

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代社会において重要な位置を占める企業について、様々な観点から理解を深める。

到達目標

企業の社会的役割、社会とのかかわりや存在意義について理解する。

各回の内容

1. 現代企業をみる視点
- 様々な企業観について学ぶ -
2. 「財・サービス提供機関」としての企業（1）
- 企業の成長について学ぶ -
3. 「財・サービス提供機関」としての企業（2）
- 企業の国際化について学ぶ -
4. 「株式会社」としての企業
- 株式会社の制度について学ぶ -
5. 「大企業」としての企業（1）
- 大企業の歴史について学ぶ -
6. 「大企業」としての企業（2）
- コーポレートガバナンスについて学ぶ -
7. 「組織」としての企業（1）
- 企業組織の基本構造について学ぶ -
8. 「組織」としての企業（2）
- 記号組織の諸形態について学ぶ -
9. 「家」としての企業（1）
- 日本的経営について学ぶ -
10. 「家」としての企業（2）
- 日本型企業結合様式について学ぶ -
11. 「社会的器官」としての企業（1）
- 企業の社会的責任について学ぶ -
12. 「社会的器官」としての企業（2）
- 企業倫理について学ぶ -
13. 企業と地域経済
- 企業と地域経済とのかかわり方について学ぶ -
14. 中小企業とベンチャービジネス
- 特にベンチャービジネスの動向について学ぶ -
15. まとめ
- これからの企業の役割、社会とのかかわり方について考える -
16. 試験

企業論

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、理解度を確認するため、レポート課題を課す。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義形式を基本とするが、各回においてグループワークなど対話的に考える場面を設定する。

評価方法

試験 60%、レポート 40%、いずれも採点後に返却する

教科書

必要に応じ、レジюмеや資料を配布する。

参考文献

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（2011）『企業論』有斐閣

ビジネス実務総合演習

科目のねらい

本科目は、思考力・判断力・表現力中で、特に「学んだ知識を有機的に結びつけて、コミュニティに貢献することができる」力を育むことをねらいとしている。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	CE2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

実践キャリア実務士の必修科目

実践的なビジネス実務のスキルを習得するために、大きく4つの実践的課題をグループや個人で解決していく。その課題を達成するための内容を、グループディスカッションや深い思考を通して整理し、実際に行い、評価をして、さらなる向上のための対策案を立案する。

到達目標

ビジネスの各シーンで、「分かる」から「できる」を目指す。

グループディスカッションで、課題の整理 対応の検討 実施と評価 次回への改善点を整理できる。

1年後期で学習した、ビジネスコミュニケーション能力の9つのスキルを活用し、改善への指針を作成できる。

自己評価ルーブリックを自ら作成し、提出できる。

各回の内容

1. オリエンテーション、課題の提示、ルーブリック評価について

2. 課題1：会議の準備を行う（1）今までの学習を踏まえて考える。（ディスカッション有）

3. 課題1：会議の準備を行う（2）新たな視点で考える。（ディスカッション有）

4. 課題1：会議の準備を行う（3）汎化をおこなう（ディスカッション有）レポート課題提示

5. 自己のコンピテンシーチェック（PROGの実施）と対策案作成について

6. 課題2：研修期間中のコミュニケーションとPDCA（1）（ディスカッション有）

7. 課題2：研修期間中のコミュニケーションとPDCA（2）（ディスカッション有）

8. 課題2：研修期間中のコミュニケーションとPDCA（3）（ディスカッション有）レポート課題提示

9. PROGの返却と、過去のPROG結果との比較から対策案の立案

10. 課題3：他者の視点で物事を捉える1【制服着用】

11. 課題3：他者の視点で物事を捉える2（ディスカッション1）

12. 課題3：他者の視点で物事を捉える3（ディスカッション2）レポート課題提示

13. 課題4：総合課題(1)
これまでの基本的スキル及び自己の能力資源を総合的に振り返り考察し、改善を加える

14. 課題4：総合課題(2)
地域や組織の一員として課題を捉え、社会問題を多面的に理解し、改善を加える

15. 課題4：総合課題(3)
総合的学習体験の振り返りと自己の能力開発計画 レポート提出有

ビジネス実務総合演習

準備学習（予習・復習等）

事前学習：各課題ごとの事前回答の準備と作成。

事後学習：各回の振り返り記述と提出、各課題のレポート作成と提出

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、専任教員と兼任教員が協働で行う授業である。具体的には、課題4つに対してグループディスカッションやワークショップを行いながら授業を展開する。また、1年次のキャリアデザイン で診断したPROGを再度受信し、その伸長度を自ら確認し、対策案を立案する。さらに、自己評価ルーブリックの作成を通して、実社会（コミュニティ）で通用できる能力を育む。全ての回で、教員と学生はインタラクティブなやり取りを行う。

評価方法

毎回の振り返り（各回2点×15回）= 30%、3つのグループ課題作成（各回10点×3回）= 30%、総合課題(自己評価ルーブリックの作成と提出) = 40%

教科書

ビジネス実務 および のテキスト、本学配布のキャリアハンドブック、1年次の各種診断結果、資料を都度配布
PROGの解説書

参考文献

その都度、授業で紹介する。

カウンセリング演習

科目のねらい

多様な人とつながるコミュニケーション力と真摯な態度を修得する。

担当教員	後藤 真
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

事例検討とロールプレイを丁寧に積み重ね、カウンセリングプロセスを実践的に学ぶ。尚、受講者にはグループ演習に対する自発的かつ積極的な参画と、対話と傾聴を中心とするコミュニケーションスキルが求められる。

到達目標

カウンセリングの基礎理論を理解し、演習を通して基本的なカウンセリング技術および対話の技法を身につける。

各回の内容

1. カウンセリングの意義
2. カウンセリング理論
3. カウンセリングプロセスと事例
4. カウンセリング演習 環境設定と「場」づくり
5. カウンセリング演習 「聴く」と「伝える」
6. カウンセリング演習 関わりのプロセスと自己分析
7. 「効果的」なカウンセリング
8. 傾聴の意義と技術
9. 事例分析の技術
10. ロールプレイ：事例1 思春期
11. ロールプレイ：事例2 青年期前期
12. ロールプレイ：事例3 青年期後期
13. 質問技法とフィードバック
14. カウンセラーの倫理とカウンセリングマインド
15. ライフデザインとカウンセリング ～「わかる」から「できる」へ～

カウンセリング演習

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

・各回において、小グループワーク等のディスカッションを通じ対話的に熟考する場面を設定する。また、理解を深めるため事例検討および講義も取り入れる。
・担当教員は、ハローワーク若年無業者相談アドバイザー、スクールカウンセラー（臨床心理士）として、若者のメンタルヘルスマネジメントに携わる。実務経験を基に、カウンセリングの基礎的理論と技術について講義する。

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

メンタルヘルスマネジメント

科目のねらい

本科目は、メンタルヘルスマネジメントの基礎について理解するとともに、社会における自己とその役割を自覚し、主体的に多様な人々と協働して学修する力（DP5）を培うための専門科目である。

担当教員	後藤 真
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代社会におけるメンタルヘルスクエアについての基礎知識を習得する。セルフケア、ストレスマネジメント、ストレスコーピング等について具体的事例を通して学習する。

到達目標

ストレス理論を中心としたメンタルヘルスクエアの基礎知識を学ぶ。ストレスコーピングスキルを身につけ、予防的観点から日常生活に応用することができる。

各回の内容

1. 導入：メンタルヘルスクエアの意義
2. 若者を取り巻く環境
3. 変化と適応のメンタルヘルス
4. 思春期～青年期のストレス
5. こころとカラダの不調
6. ストレスコーピングスキル 認知
7. ストレスコーピングスキル 感情
8. ストレスコーピングスキル 意志・行動
9. 心身の健康管理とカウンセリング
10. 演習：事例検討 思春期
11. 演習：事例検討 青年期前期
12. 演習：事例検討 青年期後期
13. 演習：事例検討 発達と環境適応
14. 「私」をケアするライフデザイン
15. セルフケアからトータルケアへ

メンタルヘルスマネジメント

準備学習（予習・復習等）

- ・参考文献を熟読する。
- ・授業で配布される自主学習ワークシートに取り組み、資料等を調査する。
- ・関連するニュースに関心を持ち、授業内での自分の課題を明確にする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・各回において、小グループワーク等のディスカッションを通じ対話的に熟考する場面を設定する。
- ・担当教員は、ハローワーク若年無業者相談アドバイザーおよび臨床心理士として、若者のメンタルヘルスマネジメントに携わる。実務経験を基に、心身の健康とストレスマネジメントについて講義する。

評価方法

小レポート：効果的なメンタルヘルスマネジメントの実践に向けて〔毎回授業後に提出〕（40％）、レポート課題：メンタルヘルスマネジメントと自己分析（30％）、最終レポート課題：メンタルヘルスマネジメントの理論と技法に関する考察（30％）

教科書

なし

参考文献

上田紀行「生きる意味」岩波新書
他、その都度、授業で紹介する

リスクコミュニケーション論

科目のねらい

本科目は、リスクに関わる「コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養」の修得を土台とし、特に思考力・判断力・表現力の中で、「他者と協働するためのスキルの修得を通じて、社会人として自らを発信することができる」スキル獲得を狙いとする科目である。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

システムの安全・安心とリスクに視座し、情報を疑う力、検証する力を養うと共に、リスク認知の視点から、リスクコミュニケーションを学ぶ。食料品・BSE問題・交通事故・医療問題・原発問題など身の回りにある諸問題を取り上げ、具体的にリスクとあるべきコミュニケーションを思考し、社会の安全について教養を深める。意思決定の極性が蔓延する現代において、どのようにして信頼社会を築くのかを、相互ディスカッションを通して思考する。

到達目標

リスクに関する基礎的な用語について自分の言葉で話すことや書くことができる。
複眼的・多角的視野からものごとを捉えることができる。
リスクコミュニケーションの諸問題について、自分の言葉で書くことができる。

各回の内容

- 安全と安心の構図
- 安心・安全を安易に使用している現状を把握し、「安心」「安全」の関係性を理解する -
- リスクコミュニケーションとは？【課題提示】
- リスクとは何か、リスクコミュニケーションとは何か？を演習（人口問題）を通し理解する -
- 信頼性とは？
- 安心、安全と信頼性の関係、高信頼者と低信頼者（ワークを通して考える） -
- 防災とリスク、ハザード
- 台風、洪水、地震などの災害とリスクについて、グループディスカッションを通して考える -
- 絶対安全論と実質安全論
- その違いを学び、身の回りの状況に置き換えてディスカッションする -
- 遺伝子組み換え食品の現状【課題提示：提出課題】
- 配布資料を通し、遺伝子組み換え作目の誕生の背景を理解する -
- 【提出物を元にグループディスカッション】原発事故、食品と水、クライシス、平時の対応、誤解、メディア - 担当ごとのレジュメを使って、グループディスカッションを行う -
- 【提出物を元にグループディスカッション】発がん報道、科学者の役割、企業のリスキミ、リスキミの実践 - 担当ごとのレジュメを使って、グループディスカッションを行う -
- 【提出物を元にグループディスカッション】
- 遺伝子組み換え食品についてグループディスカッション -
- 発電の基礎を学習し、リスクの有無を考える
- 現在の日本の発電形式を把握し、それぞれの特長を知る（グループワーク） -
- 発電の基礎を学習し、リスクの有無を考える
- グループ発表を通して、理解を深める -
- 原発を考える
- 2020年の現状を把握し、リスクを考える -
- データを読み取る眼
- リスクに関わるデータを元に、読み取る力と共有できる力を養う -
- スマホとレアメタルに内在するリスク
- 希少金属採掘に関わる現状を知り、グループで考える -
- 総合演習【課題提示：提出】
- 14回までの学習を通し、学んだ知見を自分の言葉で記述する -

リスクコミュニケーション論

準備学習（予習・復習等）

事前学習：必ず指示されたテキストのページを読み込み、質問を考え、整理しておく。

事後学習：レポート作成、学習内容に関する情報をWeb検索する

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、高等教育機関の1年次・2年次＝短大生としては、難しい領域に関わる内容を含んでいる。そこで、一つの課題に対してグループディスカッションなどを通し、相互補完し合いながら、理解する。各単元時点の最新の状況を踏まえながら、卒業後の実社会におけるリスクについて理解を深めることができる内容である。講師は、防災士を取得しているだけでなく、長年実社会で様々なリスクマネジメントの実践と、指導・助言を行ってきた多くの知見を踏まえ、短大生が深く理解できる内容としている。

評価方法

毎回の振り返り（各回5点満点×15回を100%とし、30%換算する）レポート作成（中間、期末レポート等）70%

教科書

西澤 真理子著、『リスクコミュニケーション』, エネルギーフォーラム, 978-4885554247, 2013

参考文献

渡辺悦生, 大熊廣一共著, 『リスクと共存する社会』, 養賢堂, 2017

Baruch Fishhoff他著, 中谷内一也訳, 『リスク 不確実性の中での意思決定』, 丸善出版, 2015

他, 都度授業で紹介する。

コミュニケーションスキルズ

科目のねらい

Students will learn the necessary phrases needed to travel abroad and communicate successfully in English. Learners will also apply this knowledge to situations they may encounter with foreign tourists in Japan. Personal experiences in and out of Japan will be used as topics for discussion and contribute to construction of weekly role plays.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教育学科2年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

授業の概要

This is a course for students who would like to travel to foreign countries in the future, or use English in daily encounters with foreigners in Japan. Practice of the communication skills needed to have an enjoyable experience abroad or successful experience in Japan will be done weekly. This course will be conducted in all English.

到達目標

Weekly practice of communication skills needed to travel abroad or converse in English in Japan will allow students to be more confident. Role plays will allow students to practice what they learn in real situations in front of a live audience. Reviewing their own performance will allow them to learn from their mistakes and teach themselves how to become a more successful communicator.

各回の内容

1. Introduction

2. Unit 1 Would you like chicken or fish?
(Point: asking for things on a flight)

3. Unit 2 Can I have your passport, please?
(Point: answering questions at immigration)

4. Unit 3 My mother has her own business.
(Point: talking about family)

5. Unit 4 Can I check my e-mail?
(Point: asking for things you need)

6. Unit 5 Are you ready to order?
(Point: ordering a meal)

7. Destination: The U.K.

8. Midterm Speaking Test

9. Unit 6 Where's the station?
(Point: asking for directions)

10. Unit 7 Can I use my card in this ATM?
(Point: getting money at a bank)

11. Unit 8 Do you have a non-smoking room?
(Point: reserving a hotel room)

12. Unit 9 I have a stomachache.
(Point: getting help for medical problems)

13. Unit 10 I'm from Japan.
(Point: asking about people and talking about your hometown)

14. Destination: New Zealand

15. Final Speaking Test

16. Final Discussion

コミュニケーションスキルズ

準備学習（予習・復習等）

(Review) Complete the online homework assignments for each unit in the course. Study the vocabulary and finish the online listening activities for the following unit before the next class.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

All assignments will be completed online and submitted before the following class. Pair practice of key phrases and conversations will be done in each class. Students will also perform an original role play based on the theme of the textbook unit at the end of each class.

評価方法

Midterm Speaking Test 25%、Final Speaking Test 25%、Weekly Homework 25%、Vocabulary Quizzes 15%、Class Participation 10%

教科書

『Passport: 2nd Edition (Level 1)』 Oxford University Press

参考文献

コミュニケーションスキルズ

科目のねらい

Given practice with essential vocabulary and grammar, to be able to read, discuss and listen to authentic topics in English with greater accuracy.

担当教員	ルーパジェイソン
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分 X 15回
単位数	2

授業の概要

Four skills practice (Reading, Writing, Speaking, Listening) with essential grammar on the following topics: Personal information, Food, Trends, Activities, Future Goals, Festivals, Career, etc.

到達目標

Rubric-based scoring guideline. Details TBA

各回の内容

1. Introduction of class expectations and evaluative criteria (Rubric). Self-introductions and Unit 1: Ask/Give personal information
2. Unit 1: Personal introduction, Responding to introductions, Grammar – Present Simple (review)
3. Unit 1: Review, Listening/Reading Comprehension tasks. HW Writing assignment.
4. Unit 2: Check HW. Describe Foods, Good health, Make/respond to suggestions, Grammar – Comparison/Superlatives (adjectives)
5. Unit 2: Review, Listening/Reading Comprehension tasks. HW Writing assignment.
6. Unit 3: Check HW. Talk about future possibilities, Grammar – Stative Verbs (thinking, having, feeling, sensing verbs)
7. Unit 3: Talk about intuition and mysteries. Listening/Reading Comp. tasks. HW Writing assignment.
8. Check HW; Mid-term Review
9. Unit 4: Lifestyle, Disagreeing (strong/weak), Grammar – Giving advice with (could, should, ought to, had better)
10. Unit 4: Make predictions. Listening/Reading Comp. tasks. HW Writing.
11. Unit 5: Check HW, Make Appointments, Do chores/errands, Grammar – Requests with (can/could, would...you mind...?)
12. Unit 5: Presentation: Suggest/Describe community improvements Listening/Reading Comp. tasks. HW Writing assignment.
13. Unit 6: Goals: Responding to Good/Bad news, Ask/Answer questions about your future, Grammar – be going to/will
14. Unit 6: Make predictions about future, Listening/Reading Comp. tasks.
15. Review (Unit 4-6)
16. Final Exam (Units 4-6)

コミュニケーションスキルズ

準備学習（予習・復習等）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

Develop English fluency and speaking/listening confidence through student-centered, authentic tasks.

評価方法

Mid-term: 25%, Final: 25%; Writing HW: 10%; Listening Quizzes: 10%; Presentation: 20%, Participation: 10%

教科書

World Link 2 | Developing English Fluency (3rd Ed.), National Geographic Learning/Cengage

参考文献

上級リーディング

科目のねらい

本科目は、グローバル化する情報社会で必要とされる教養を学ぶとともに、語学力を身につけ、学んだ知識を有機的に結びつけて、コミュニケーションにこうけんするための科目である。

担当教員	佐藤純子
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

編入試験および外部検定試験に対応できる英文読解力を養うとともに、実践的コミュニケーション能力を高める。

到達目標

編入試験および外部検定試験に対応できるような英文読解力を身につける。
場面別で使用される英語の言い回し、および言い回しを使用するための技術について知る。
上記の英語についての聴解力を向上させる。

各回の内容

1. オリエンテーション / Making Contact I

2. Socializing / Making Contact II

3. Getting to Know You

4. Dining Out

5. Communication / Can I Ask Who Is Calling, Please?

6. Let's Stick to the Schedule

7. Tell Us about Yourself I

8. 中間まとめ Tell Us about Yourself II

9. Meetings / Could We Meet Next Week?

10. Can I Make a Point Here?

11. I'm Not Sure I Agree

12. Presentations / Today's Topic Is...

13. To Sum Up

14. Any Questions?

15. 試験

16. Presentation / Review

上級リーディング

準備学習（予習・復習等）

予習）教科書の指定された箇所の問題に答えておくこと
復習）宿題に取り組むこと、およびテストの対策を十分に行うこと

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

各回にテーマ、内容の知識の習得を中心にグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを組み入れる。

評価方法

小テスト	15%
課題（Presentation）	20%
中間まとめ	25%
試験	25%
出席・参加態度・宿題	15%

試験等の解答および解説、返却は、可能なものについては授業内で行う。それ以外については方法を授業内で明示する。

教科書

「Interactive Business English On DVD」成美堂

参考文献

特にないが、積極的に英語に触れる機会を作ること

上級リーディング

科目のねらい

グローバル化に伴う多文化的な課題を異文化理解の分野から批判的に多様な視点から分析する力を身につけ、自己の文化的アイデンティティや近くが他者のものと比較することでどのような相違があるかを理解する力を養う。また、学んだ力を社会を取り巻く現象と結び付け、共生的な立場から考察し、自分の意見を発信する力をつけるための科目である。

担当教員	高橋未希
授業形態	演習・講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	1
単位数	2

授業の概要

英文読解力を養うとともに、その背景にある文化を取り巻く諸問題について自分の見識から読み進めることを学ぶ。異文化理解に関する基本的な理念について理解し、その知識をもとに身近な事柄について考察する力を養う。

到達目標

異文化理解に関する英文を理解することができる。

異文化理解を行ううえで必要な理念や原則、用語について理解できる。

文化の違いによって起こりうる問題について異文化理解の立場から客観的、複眼的に分析することができる。

異なる立場からの見解の違いを考慮した上で、自分の意見を発信することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. Culture and Identity
3. Stereotypes
4. Perception
5. Values
6. Deep Culture
7. Cultural Understanding Activities
8. Words, Words, Words
9. Communication Without Words
10. Communication Styles 1
11. Communication Styles 2
12. 異文化理解に関するケーススタディ検討
- アジア圏の文化から考える -
13. 異文化理解に関するケーススタディ検討 (2)
- 西洋やその他の国の文化から考える -
14. 異文化理解に関するプレゼンテーション(準備)
15. 異文化理解に関するプレゼンテーション(発表)

上級リーディング

準備学習（予習・復習等）

学習した新出用語に関して、指示された課題を毎時間行うこと。
自主的に海外情勢に目を向け、国際問題や日本と海外との関係に対して意識を向け、身近なものとして理解を深めること。

* 反転学習を前提としています。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・ 各回において、シミュレーションゲームやロールプレイ、ペアワークやディスカッションなど、対話的学習の場面を設ける
- ・ 視覚教材の積極的な活用を行う

評価方法

出席・参加態度10% まとめレポート40% 小レポート20% 時事問題に関するプレゼンテーション30%

教科書

Different Realities - Adventures in Intercultural Communication - (南雲堂)

参考文献

適宜提示する。

*

テキストは英検準2級以上レベルの内容となっておりますが、内容について深く考察することが主体となりますので、議論や発表等は日本語で行います。

* 文化人類学の講義と合わせて履修するとより内容理解が深まりますので合わせて履修することをお勧めします。

異文化理解

科目のねらい

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

This course will talk about culture, language, and communication in a global society. We will also discuss practical communication skills to deal with many cultures in the world. This class will be in ALL ENGLISH.

到達目標

Students will learn about various non-verbal and verbal types of communication. Differences in cultural communication styles will also be discussed. The last half of the course will talk about stereotypes, prejudice, and discrimination. Learners also will give a presentation in English about a nationality of their choosing.

各回の内容

1. Introduction

2. Facial Communication and Eye Contact

3. Gestures and Body Movement

4. Space and Distance

5. Gender and Communication Style

6. Self-Assertiveness

7. Midterm Review

8. Barriers to Communication: Stereotypes

9. Barriers to Communication: Stereotypes

10. Barriers to Communication: Stereotypes

11. Barriers to Communication: Prejudice

12. Barriers to Communication: Prejudice

13. Barriers to Communication: Discrimination

14. Barriers to Communication: Discrimination

15. Barriers to Communication: Discrimination

異文化理解

準備学習（予習・復習等）

Learn the necessary vocabulary for each chapter and listen to the audio CD to practice reading. After each chapter, complete the comprehension questions.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

評価方法

Writing homework 30%, Oral presentation 20%, Midterm Review 20%, Vocabulary Quizzes 20%, Class Participation 10%

教科書

『Beyond Boundaries: Insights into Culture and Communication』, Cecilia Ikeguchi and Kyoko Yashiro, ピアソン・ロングマン

参考文献

「The Culture Map」 Erin Meyer, Public Affairs

観光英語

科目のねらい

本科目は、グローバル化する情報社会で必要とされる教養を学ぶとともに語学力を身につけ、多様な人となつがるコミュニケーション力と真摯な態度を修得するための科目である。

担当教員	佐藤純子 ・ 野崎佐知
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約5,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定2級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的なe英会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定2級もしくは3級取得を目指す。観光英語 の単位取得者が望ましい。

到達目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要となる専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化(国内外・異文化)、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. レベルチェックテスト(観光英語検定過去問題) part 1、 オリエンテーション
2. レベルチェックテスト(観光英語検定過去問題) part 2、 Travel information
3. At the airport
4. Hotel
5. Dining
6. Dining
7. Buses and trains
8. Review 中間テスト
9. Mailing and money exchange
10. Sightseeing 1
11. Sightseeing 2
12. Problems and complaints
13. Tour conductor duties
14. Sightseeing in Japan
15. 期末テスト
16. 課題(Report) / Review

観光英語

準備学習（予習・復習等）

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。リーディング問題と講義で指示がある部分については自己学習とし、模範解答で知識を確認する。英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義等による各回のテーマ、内容の知識の習得を中心にグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを適宜組み入れる。

評価方法

単語・並べ替えテスト20%、課題（レポート）20% 宿題等20%

中間確認テスト15%、学期末テスト25%、

試験等の解答および解説、返却について可能なものは授業内で行う。それ以外は授業内で方法を明示する。

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編『ENGLISH FOR TOURISM intermediate』三修社

参考文献

その都度紹介する。

情報リテラシー

科目のねらい

コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得している。
学んだ知識を有機的に結びつけて、コミュニティに貢献することができる
自ら設定した課題について、多様な視点から建設的に考察することができる

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

共通教育の「情報演習」よりも、さらに実践的な情報リテラシーを学習する。卒業後企業や編入先の環境を思考すると、情報検索能力、作業効率性向上、現状のICT環境の理解等のスキルは、今や必ず獲得しなければならないスキルである。これら3つのスキルを中心に、自ら思考し活用できる力を養う。

授業以外に自学・自習する時間が必要

定員30名。それを超えた場合は、別曜日別時間に二つに分けて、授業を行う場合がある。

到達目標

- 1) インターネットを使って、与えられた情報検索課題を、自ら解くことができる。
- 2) 実務で素早く業務を遂行するために、与えられたアプリケーションの操作方法を改善することができる。
- 3) 卒業論文作成で必要な機能を確実に利用できる。
- 4) 企業での利活用を想定した、総合実技問題を完成させることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション：全体の流れと学習方法（従来の検索や操作を振り返る）
- 本科目の目的と授業内容、評価方法、提出課題を伝える。今までの操作や検索の問題を明らかにする -
2. より高度な情報検索・収集の目的と情報源
- 情報検索スキルを上げるための技術を養う -
3. 近道を学ぶ（1） ミニテスト有
- 実務での効率よい操作方法の基礎を演習を通して学ぶ -
4. 近道を学ぶ（2） 課題有
- 実務での効率よい操作方法の基礎を演習を通して学ぶ -
5. 情報の取扱と実務検索演習と課題
- 特別研究や実務で活用できる検索手法を演習を通して学ぶ -
6. 作業効率を考える：Excel操作の改善と演習（1）
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
7. 作業効率を考える：Excel操作の改善と演習（2） 課題有
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
8. 実務利活用を考える：Excel操作の改善と演習（1）
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
9. 実務利活用を考える：Excel操作の改善と演習（2） 課題有
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
10. 実務利活用を考える：Excel操作の改善と演習（3） 課題有
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
11. 実務利活用を考える：Word操作の改善と演習（1） 課題有
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
12. 実務利活用を考える：Word操作の改善と演習（2）
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
13. 実務利活用を考える：WordとPowerPointの連携 課題有
- 情報演習 等で学習した内容を踏まえ、さらに効率の良い操作を演習を行いながら学ぶ -
14. 総合実技演習（1）
- 13回までの学習で学んだことの集大成として、総合実技演習を行う -
15. 総合実技演習（2） 期末課題有
- 13回までの学習で学んだことの集大成として、総合実技演習を行う -

情報リテラシー

準備学習（予習・復習等）

- 『事前学習』 次回の内容の事前調査
- 『事後学習』 学習の振り返りと弱点補強、課題の作成、操作の習得
関連書籍などにより主体的に教養を高めること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、40年以上にわたるコンピュータ応用技術に携わってきた教員が、実社会でのICT利活用を踏まえ、なぜその操作が必要なのかを気づいてもらいながら、毎回演習を通して、身に付けていく。インストラクショナルデザインの9教授事象やARCSを元にコース設計を行っている。演習資料は、ほぼデジタルで提供するため、授業前後の空き時間や自宅学習も可能としている。

評価方法

毎回の振り返り（各回5点×15回を20%換算）、情報検索ブロック課題等20%、コンピュータスキルズ30%、期末課題30%

教科書

なし。
適宜プリントやデジタル資料を配布

参考文献

都度紹介する。

キャリア教養特講

科目のねらい

グローバル化する情報社会で必要とされる高度な教養を学ぶとともに、主体的に学び続けることで「なりたい自分」の実現に向けて行動できる力を養う科目である。特にホスピタリティを必要とされる場面において、多様な人とつながるコミュニケーション力と真摯な態度を修得するための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生・2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

今や、サービス産業（第3次産業）のGDP、雇用のシェアは7割程度を占める重要な産業である。一方、生産性の向上、効率化、過労死の阻止を目指した「働き方改革」も推進されている。

本授業では、グローバル社会における日本の産業構造を学びながら、サービス業の通底している「ホスピタリティ」とは何なのかを追究する。

到達目標

日常生活に欠かせないサービス業の背景には、どのような仕組みがあり、どのような構造で成り立っているのかを知ろうとする知的な視点を持つことが出来る。また自分自身とのライフキャリアプランと社会を繋げる力を身に付けることが出来る。

各回の内容

1. なぜサービス業を学ぶのか～イントロダクションにかえて～
2. コンビニ論1～マーケティング論～（オンデマンド型）
3. コンビニ論2～ストアコンパゾン論～（オンデマンド型）
4. スタアコンパゾン～演習～（zoomによる同時双方向型）
5. コンビニ論3～コンビニが投げかけた問題～（zoomによる同時双方向型）
6. 理美容業の世界1（オンデマンド型）
7. 理美容業の世界2～ゲストスピーカーから現場を聞く～（オンデマンド型）
8. ディズニーリゾートを考える1～ミッション論～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
9. ディズニーリゾートを考える2～人材育成論～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
10. ディズニーリゾートを考える3～自ら考える力～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
11. ディズニーリゾートを考える4～アンテナの立て方～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
12. ECと物流（オンデマンド型）
13. 過剰サービスと感情労働（オンデマンド型）
14. 日本人の精神性とホスピタリティ（zoomによる同時双方向型）
15. これからの私たちとサービス業～まとめにかえて～（zoomによる同時双方向型）
16. 論述試験

キャリア教養特講

準備学習（予習・復習等）

ディズニー、コンビニ、EC、物流に関するニュースにアンテナを立てておくこと。その都度、指示された日時には、そのニュースをまとめプレゼンできるようにしておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・ COVID-19感染拡大予防の観点より、基本的に遠隔授業とする。授業内容によって、オンデマンド型（Microsoft streamを活用予定）と同時双方向型（zoomを活用予定）を使い分ける。
- ・ Office365の基本操作、zoomの基本操作については理解しておくこと。
- ・ なお、聴講デバイスの指定は特にしないがPCでの受講が望ましい。

評価方法

- ・ 振り返りシートの記述内容30%（振り返り気づきの提出は、Microsoft Formsを活用予定）
- ・ チームワークへの態度と主体性（プレゼンテーションなども含む）20%
- ・ 最終論述試験50%

教科書

なし

参考文献

- ・ A.R. ホックシールド (著), Arlie R. Hochschild (原著), 石川 准 (翻訳), 室伏 亜希 (翻訳) 『管理される心 感情が商品になるとき』世界思想社、2000年。
- ・ 谷本真由美 『不寛容社会 - 「腹立つ日本人」の研究』ワニブックス、2017年。
- ・ 新井克弥 『ディズニーランドの社会学 脱ディズニー化するTDR』青弓社、2018年。
- ・ 田村尚子 『感情労働マネジメント 対人サービスで働く人々の組織的支援』生産性出版、2018年。
- ・ ムーギー・キム&プロジェクトディズニー 『最強のディズニーレッスン 世界中のグローバルエリートがディズニーで学んだ50箇条の魔法の仕事術』フォレスト出版、2018年。

特別研究 言葉と文化・人

科目のねらい

本科目は、現代社会を取り巻く様々な現象や問題についての知識を獲得し、自ら設定した課題について多角的かつ建設的に思考、考察する力を養うと同時に、論文の過程でそれらの考えを適切に表現する力高めるものである。また、発表活動や討議を通して、主体的に他者とコミュニケーションする真摯な態度の伸長を図る。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

言語そのものまたは言語や異文化に関連する社会的・人間発達のコミュニケーションに関する現象について、幅広い見識を獲得し、思考を深めることを目的とする。身近な事象に対して、言語や文化・社会的見地から考察し、それぞれのテーマからより深い研究を行い、論文を執筆していく。

到達目標

自ら関心を持ったテーマを選んで卒業論文を仕上げることができる。第二言語習得や英語教育、言語政策論、社会言語学、日本語教育・文化表象論などの分野から自由にテーマを選び、知識と考察を深めることでそれぞれの研究を論証する。その過程では、文献購読による知識の獲得や、発表活動を通して研究テーマに関する多角的で建設的な意見の構築および話し言葉や書き言葉での多彩な表現力を涵養する。

各回の内容

1. オリエンテーション 研究とは何か、論文を書くということは何をするのか。 / 言語学とは何か
2. 文献購読・発表
3. 文献購読・発表
4. 文献購読・発表
5. 文献購読・発表
6. 文献購読・発表
7. 文献購読・発表
8. 研究テーマの見つけ方
9. 文献を探す方法
10. 調査の方法
11. テーマの絞り込みとアウトラインの作成
12. 論文指導 引用の仕方について
13. 論文指導 論文作成上で用いる表現について
14. 論文指導 論文構成とその展開パターンについて
15. 論文指導 参考文献リストの作成について
16. 国際化と言語の関係について

特別研究 言葉と文化・人

17. 中間発表

18. 中間発表

19. 論文指導-チュートリアル-

20. 論文指導-チュートリアル-

21. 論文指導-チュートリアル-

22. 論文指導-チュートリアル-

23. 論文指導-チュートリアル-

24. 最終報告

25. 論文集作成

26. 論文集作成

27. 論文集作成

28. 特別研究発表会準備

29. 特別研究発表会準備

30. 特別研究発表会

特別研究 言葉と文化・人

準備学習（予習・復習等）

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。演習では、自分だけではなく他の学生が発表した内容も自分の知識として学びとることを心がけ、ディスカッションには積極的に参加すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・個人の研究テーマについてはディスカッションを複数回設定する。
- ・教員とのチュートリアル場の場を設定し、対話的に推敲しながら論文作成にあたる。

評価方法

毎週の取り組み姿勢20%（レジユメの内容、発言など）

論文の内容・構成・独自性 70%、

授業への積極的参加態度10%

教科書

ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方（ナツメ社）

参考文献

各自のテーマに関連したものを適宜演習内にて指示する。

特別研究 情報と人・心理

科目のねらい

本科目は、キャリア教養学科のDP：知識・技能・思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を総合的に習得する、通年の必修科目であり、学びの集大成として特別研究の成果を卒業論文として提出する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

【情報と人・心理】

加藤ゼミのテーマは、情報と人である。情報と人との関わり、人と人とのコミュニケーション問題、ICT機器使用時のコミュニケーション、ネット空間コミュニケーション、リスクコミュニケーション、ネット空間の様々な課題、情報を取り扱う人の心理・心の問題、さらにはITの未来等を対象に研究活動を行う。

また、プログラム作成、原発や放射線に関する研究も受け付ける。さらに家庭の電気（太陽光、省エネ、自動車の自動運転）も研究テーマに加える。単に調査した内容で論文を記述するのではなく、エビデンスに基づき、深く思考した論文作成を目指す。

到達目標

前期：研究テーマを具体的に決め、その研究計画を立案することができる。論文の書き方を学び、引用情報の記載等使用することができる。自分の研究テーマの進捗と課題をプレゼンすることができる。ポータルサイトを使うことができる。

後期：期日までに論文を提出することができる。その為のタイムマネジメントと逃げない心を養うことができる。記述した文章を推敲し、ハウレンソウしながら研究を遂行することができる。

各回の内容

1. オリエンテーションと1年間の研究について

2. 情報と人・心理：テーマ概要と1年間の進め方、SNSサイト登録

3. 論文を書く前に（1）：論文とは？先輩の論文から学ぶ

4. 論文を書く前に（2）：論文の形式と引用・参考、図表の作り方

5. テーマのダウンサイジング

6. 研究計画を作る 提出

7. テーマ発表と質疑応答 提出

8. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（1）

9. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（2）

10. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（3）

11. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（4）

12. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（5）

13. 前期中間発表準備（1）

14. 前期中間発表（グループ1） 提出

15. 前期中間発表（グループ2） 提出

16. 論文構成をマインドマップで作成する 提出

特別研究 情報と人・心理

17. 論文作成と指導・助言(1)

18. 論文作成と指導・助言(2)

19. 論文作成と指導・助言(3)

20. 論文作成と指導・助言(4)

21. 論文作成と指導・助言(5)

22. 後期中間発表(グループ1) 提出

23. 後期中間発表(グループ2) 提出

24. 論文作成と指導・助言(6)

25. 論文作成と指導・助言(7)

26. 論文作成と指導・助言(8)

27. 論文作成と指導・助言(9)

28. 論文作成と指導・助言(10)

29. 論文発表(グループ1) 提出

30. 論文発表(グループ2) 提出

31. 発表会の準備

- 各自ポスターセッション用発表資料を作成する -

特別研究 情報と人・心理

準備学習（予習・復習等）

事前準備学習

1年後期のアカデミックスキルで作成した論文概要や各自のダウンサイジング資料を読み返しておく。

「残念ながらその文章では伝わりません」を春休み中に読破し、「できない」「できるつもり」「できる」ことを明確にしておく 2年次第1回目でディスカッション実施

2年通年における

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

評価方法

毎回の振り返り10% 中間発表20% , 論文提出と発表70%(論文はルーブリックで評価)

教科書

2018年度は、1年次のゼミ決定時に各自購入 事前学習用として次の書籍を購入精読する。
山口拓朗, 残念ながらその文章では伝わりません, 大和書房, 800円(税込)

参考文献

各自の研究テーマに関する文献を含めその都度、授業で紹介する。

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 2009

特別研究 経済・経営

科目のねらい

本科目は、キャリア教養学科のDP：知識・技能・思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を総合的に習得する、通年の必修科目であり、学びの集大成として特別研究の成果を卒業論文として提出する。

担当教員	山野実
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

経済、企業等の経営、業界動向に関することをテーマとした研究を行う。研究を通して、経済、企業経営等に関する見識を深める。

到達目標

自らの研究・他の学生の研究成果により、経済、企業経営等に関する知識や見識を広める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 論文について
3. 調査研究の進め方
4. テーマ（案）・研究計画の発表
5. 調査研究（1）
6. 調査研究（2）
7. 調査研究（3）
8. 調査研究の進捗状況の発表
9. 調査研究（4）
10. 調査研究（5）
11. 調査研究（6）
12. 中間発表準備
13. 中間発表（研究テーマと論文の構成）（1）
14. 中間発表（研究テーマと論文の構成）（2）
15. 中間発表（研究テーマと論文の構成）（3）
16. 論文作成、助言・指導（1）

特別研究 経済・経営

17. 論文作成、助言・指導 (2)

18. 論文作成、助言・指導 (3)

19. 論文作成、助言・指導 (4)

20. 中間発表準備

21. 中間発表 (1)

22. 中間発表 (2)

23. 論文作成、助言・指導 (5)

24. 論文作成、助言・指導 (6)

25. 論文作成、助言・指導 (7)

26. 論文作成、助言・指導 (8)

27. 最終発表準備

28. 最終発表 (1)

29. 最終発表 (2)

30. 最終発表 (3)

特別研究 経済・経営

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に次の授業までの課題を示す。また、各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポート作成を求めることがある。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

文献等の調査など個々の学生による研究活動と対話的に考えるグループワークにより行う。なお、授業は面接授業及び遠隔授業（オンデマンド型）により実施する。

評価方法

論文・最終発表（論文の構成・内容、表現力など）100%

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ紹介する。

特別研究

科目のねらい

本科目は、キャリア教養学科のDP：知識・技能・思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を総合的に習得する、通年の必修科目であり、学びの集大成として特別研究の成果を卒業論文として提出する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

法学に関する研究を行う。法学というと難しくて遠い学問のように思われがちだが、実は「よくある出来事」に関わっていることが多く、非常に身近な学問である。その「よくある出来事」は普通の人の感情や欲が原因となっているため、具体的な事案を論理的に議論するだけでなく、心で感じてもらいたいと思う。そして、様々な事案の中から自分の心のアンテナに引っかかったことを是非とも研究テーマに選んでほしい。各自の個性を大切にしつつ、短期大学で学んだ集大成となる論文が執筆できるよう、丁寧に指導していく。

*テーマは、人権問題、家族法の問題、犯罪に関する問題など、法学全体から選択できる

到達目標

- ・法律問題を具体的に・感覚的に捉えることができるようになる
- ・判例を理解できるようになる
- ・プレゼンテーションや発表を通じて、自分の言いたいことをまとめ、表現し、他人に伝えることができるようになる
- ・論文の作成を通じて、文献や判例を使って法知識につき調査し、自己の理解を深めた上で、文章にまとめることができるようになる

各回の内容

1. 前期オリエンテーション

2. 論文について

3. 判例の重要性

4. 調査・研究（1）

5. 調査・研究（2）

6. 調査・研究（3）

7. 調査・研究（4）

8. 調査・研究（5）

9. 研究テーマの決定

10. 研究計画作成（1）

11. 研究計画作成（2）

12. 研究計画のプレゼンテーション準備（1）

13. 研究計画のプレゼンテーション準備（2）

14. 研究計画のプレゼンテーション

15. 研究計画のプレゼンテーション

16. 後期オリエンテーション・夏季休暇中の研究報告

特別研究

17. 研究計画再検討

18. 論文作成指導（1）

19. 論文作成指導（2）

20. 論文作成指導（3）

21. 論文作成指導（4）

22. 中間発表

23. 中間発表

24. 論文作成指導（5）

25. 論文作成指導（6）

26. 論文作成指導（7）

27. 論文作成指導（8）

28. 最終発表の準備

29. 最終発表（1）

30. 最終発表（2）

特別研究

準備学習（予習・復習等）

- ・講義で扱った法律問題につき各自で調査すること
- ・研究テーマの選定や研究の実践として各自、文献等にあたること
- ・ニュースや新聞等の報道に触れ、研究テーマに関わるものがないか目を配ること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

書籍や学術論文等を読み込む、NPO法人や地方公共団体等にインタビューする等をして自己の研究テーマに関する調査をする。また、他の学生のテーマに関する研究結果をシェアするため、グループディスカッション等も実施する。

評価方法

論文（論文の構成・内容、表現力など）80%
ゼミでの活動実績 20%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

科目のねらい

グローバル化の進展や科学技術の開発が進み、変化が激しい社会において、主体的に研究したいテーマを設定し、仮説を立て真理追究を「特別研究論文」という形で著す科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

「生涯学習」を軸とする研究を行う。学ぶとは何かを追究することで、知と知、知と人、人と人、人と地域という多様なつながりの重要性、財産性そしてその魅力を明らかにする。生涯学習そのものが広い概念のため、多様かつ多面的なテーマ設定が可能である。高等教育機関における学びの集大成として特別研究論文を位置づけ、自らの研究テーマに真摯に向き合う指導を行う。

到達目標

“いつでも・どこでも・だれども”自己実現が可能な生涯学習社会を構築するためには、いかなる必要があるのか。また私たちには何が出来るのか。その可能性を研究を通して理解し追究できる力を修得し、論文を仕上げることを本授業の到達目標とする。

各回の内容

1. オリエンテーション（一人一研究論）

2. 論文をなぜ書くか

3. 生涯学習概論

4. 生きがい論について

5. コミュニティとは

6. 連携論と地域づくり(1)

7. 連携論と地域づくり(2)

8. 連携論と地域づくり(3)

9. 研究テーマの決定

10. 調査法について

11. 1/2発表(1)～研究テーマの焦点化の重要性～

12. 1/2発表(2)～体系化とは何か～

13. 1/2発表(3)～独自性とは何か～

14. 1/2発表(4)～先行研究の読み方～

15. 前期まとめ～進捗報告～

16. 論文執筆指導(1)

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

17. 論文執筆指導(2)

18. 論文執筆指導(3)

19. 論文執筆指導(4)

20. 3/4発表(1)～課題の見つけ方～

21. 3/4発表(2)～引用・脚注～

22. 3/4発表(3)～体系性のチェック～

23. 論文執筆指導(5)

24. 論文執筆指導(6)

25. 論文執筆指導(7)

26. 論文執筆指導(8)

27. 論文執筆指導(9)

28. 研究報告書の作成(1)

29. 研究報告書の作成(2)

30. 振り返りの共有

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

準備学習（予習・復習等）

生涯学習に関する各自治体や機関の取り組みの情報を探しておく。また自分の特別研究テーマに関する文献や先行研究を毎週、レジюмеにまとめて提出すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・講義、各自の研究テーマに関するグループディスカッション、グループにおける研究進捗共有を行いながら、個人の研究を進めていく。

評価方法

- ・レジюме作成やインタビューなど調査への取り組みの姿勢40%
- ・授業への積極性10%
- ・論文50%

教科書

なし

参考文献

- ・白井利明、高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2013年
- ・山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室:3つのステップ』新曜社、2013年

特別研究

科目のねらい

本科目は、キャリア教養学科のDP：知識・技能・思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を総合的に習得する、通年の必修科目であり、学びの集大成として特別研究の成果を卒業論文として提出する。

担当教員	築田美抄
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

「人生100年時代」に加えて「AIの時代」といわれる現代社会において、ヒトの「心の発達」（発達心理学）は、まさに「人間ならではの」研究テーマであるといえよう。本ゼミでは、現代における心理学的テーマ（レジリエンス、マインドフルネス、いじめ、コンプレックス、自己愛、集団など）について、精神分析を基盤としつつ、発達理論を主な根拠として「人間理解」を目的とする研究を行う。

到達目標

- ・ゼミ生各自が興味・関心を寄せる心理学的テーマについて、主体的に研究活動を行い、そのテーマの普遍性や研究対象としての価値をゼミ内でシェアすることにより、全体的理解を深める。
- ・ゼミ生各自が興味・関心を寄せる心理学的テーマにおける「心のメカニズム」について、精神分析の基礎理論を根拠とする考察を行い、自身の考えを論述した論文を作成する。

各回の内容

1. 心理学の基礎理論
2. 心理学の基礎理論
3. 心理学の基礎理論
4. 精神分析の基礎理論
5. 精神分析の基礎理論
6. 精神分析の基礎理論
7. 研究テーマの個別指導 - 1
8. 研究テーマの個別指導 - 2
9. 研究テーマの個別指導 - 3
10. 研究テーマの個別指導 - 4
11. 論文個別指導 - 1
12. 論文個別指導 - 2
13. 論文個別指導 - 3
14. 論文個別指導 - 4
15. 論文個別指導 - 5
16. 論文個別指導 - 6

特別研究

17. 論文個別指導 - 7

18. 中間報告

19. 中間報告

20. 中間報告

21. 個別論文指導 - 8

22. 個別論文指導 - 9

23. 論文個別指導 - 10

24. 論文個別指導 - 11

25. 論文個別指導 - 12

26. 論文個別指導 - 13

27. 論文個別指導 - 14

28. 研究発表準備

29. 研究発表準備

30. 研究発表準備

特別研究

準備学習（予習・復習等）

- ・各自の研究テーマに応じた心理学における必要箇所、精神分析理論を自主的に学習すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・各自の研究テーマをゼミ内でシェアするために、メンバーによるプレゼンテーション、研究テーマについてのディスカッションなどを行う。

評価方法

- ・論文成果 80%
- ・研究活動に対する取り組みの態度 20%

教科書

- ・各自の研究テーマに応じて、必要なテキストや資料を指示する。

参考文献

- ・各自の研究テーマに応じて、必要な文献を指示する。

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

科目のねらい

本科目は、他者とのつながりと真摯な協働（DP4、DP6）を通してコミュニティの課題を発見するとともに（DP1）、自ら設定した研究課題について多様な視点から考察する（DP2）力を培う科目である。また、社会における自らの役割を自覚し（DP5）、学んだ知識を有機的に結びつけるべく（DP3）、本科目の成果を卒業論文として提出する。

担当教員	後藤真
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

各自の主體的な関心に基づき、対人関係、メンタルヘルス、グループファシリテーション等をテーマとした研究を遂行する。心理学の知見に基づいた学術的な調査、文献読解、および論文作成を通して、自己と世界を客観的に再考する能力の習得を目指す。

到達目標

自己、他者、世界との「つながり」と「関係性」に着目し、コミュニティにおける様々な課題を学問的に多様な視点から考察する力を培う。またゼミ内外での相互研鑽を通して、内的気づきに基づく協働の学び合いスキルを獲得する。

各回の内容

1. 前期オリエンテーション

2. 概説：論文について

3. 文献読解1

4. 文献読解2

5. 文献読解3

6. 研究調査計画予備プレゼンテーション

7. 研究調査計画予備プレゼンテーション

8. 調査研究1

9. 調査研究2

10. 調査研究3

11. 調査研究4

12. 調査研究5

13. 研究調査計画プレゼンテーション

14. 研究調査計画プレゼンテーション

15. 総合ディスカッション

16. 後期オリエンテーション

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

17. 論文作成・個別指導1

18. 論文作成・個別指導2

19. 中間ディスカッション

20. 論文作成・個別指導3

21. 論文作成・個別指導4

22. 論文作成・個別指導5

23. 論文作成・個別指導6

24. 論文作成・個別指導7

25. 論文作成・個別指導8

26. 論文作成・個別指導9

27. 総合ディスカッション

28. 最終発表 1

29. 最終発表 2

30. 最終発表 3

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

準備学習（予習・復習等）

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。また、質疑応答には積極的に参画し、自己だけでなく他者の学びにも貢献することが求められる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

学期末の研究プレゼンテーションおよび質疑応答を通じ、対話的に熟考する場面を設定する。

評価方法

論文70%、プレゼンテーション30%を総合的に評価する。

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ演習内にて都度指示する。